

当館が認知した主な犯罪の事例（4月～6月）

以下は、当館が認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）事例です。

1. スリ、置き引きの被害

【事例1】

デュッセルドルフ市内のシュタインシュトラッセ駅で地下鉄を下りたところ、外国人男性から「インマーマン通りはどこか」などと声をかけられた。同通りに至る出口などを案内し男と別れたが、その後、上着のポケットに入れていた財布2つと携帯がなくなっていることに気がついた。

※ シュタインシュトラッセ駅を舞台にしたスリ、置き引きの報告を多数受けています。同駅を利用する際には、狙われているかもしれない、との意識を持って警戒してください。

【事例2】

家族でアムステルダムからケルン行きのICEに乗車し、自分と子供のパスポートが入ったリュックサックを頭上の網棚に置いていたが、気がついたときにはリュックサックがなくなっていた。

※ 列車内での盗難事例が多く報告されています。特に、途中駅で数分間停車した際に盗まれる場合が多いようです。

※ 他にも、同様の手口でリュックサックがすり替えられていたという被害の報告もあります。

【事例3】

講義を受けるため、大学のロッカーにカバンを置いた。自分がその場を離れてから施設管理者が鍵をかけるまでの数分間に、何者かにカバンごと盗まれた。

※ 常に荷物から意識を切らすことなく、十分に注意してください。

2. 侵入盗

【事例 1】

自宅に帰宅した際、見知らぬ男性と自宅で鉢合わせをして、その後、男性が逃走した。居室内に入ると荒らされた様子が確認でき、侵入されたことが判明した。

- ※ 戸建てやマンションを問わず、ドアや窓は確実に施錠してください。
- ※ 長期不在時・夜間帯は室内のカーテンを閉めるなどして、室内の様子を外部から容易にうかがえないようにしましょう。

3. その他

【事例 1】いかさま賭博

ベルリンを一人で旅行中、ベルリン大聖堂近くの路上で楽しそうにゲームをしている人に声をかけられた。話を聞いてみると賭け事をしているようであり、その時居合わせたほかの通行人も参加する様子だったので、自分も参加してみることにした。気がつくと、参加者のうち自分だけが負けがこんでいき、数十ユーロと持っていた日本円数千円を支払わされた。

- ※ その時に居合わせた者らは、全て「サクラ」だと思われます。ドイツだけではなく世界中でこの種の被害が確認されていますので、ご注意ください。

【事例 2】

日本企業の事務所に、本邦の本社社長を名乗る者から詐欺の電話があった。電話の相手は、その声や話し方が疑いようのないほど社長本人と似ていたため、信じ込んでしまいそうになった。しかし、別の事務所からも、事前に同じような詐欺電話に関する報告を受けていたため、これを看破し被害を免れた。

- ※ 過去にも日本企業に対する詐欺電話・メールが認知されております。
- ※ この種の詐欺電話・メールは、日本企業の社長や役員等を騙り、「企業買収」や「送金してほしい」等の言葉を用いて、金銭をだまし取ろうとしています。
- ※ 相手を安易に信用せず、幹部に報告する等、慎重な対応をお願いします。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに 110 番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。